



たいじゅ もり
大樹の森

3月号

<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/fudomaru/>

旅立ちのときへ

校長 山下 謙一郎

校庭の木々や花々が芽吹き始め、春の訪れを感じる季節となりました。春は「旅立ち」の季節でもあります。小学校において3月は、1年生から5年生にとっては進級への最終準備の時期であり、6年生にとってはいよいよ卒業を迎える時期です。不動丸小学校においても例外ではありません。

今、校内を歩いていると6年生の卒業をお祝いする各学年の掲示物を見ることが出来ます。どの掲示物もアイデアにあふれた力作で、校内の様々な場所にきれいに飾られています。6年生はこの掲示物を見ながら、各学年からのお祝いのメッセージを受け取るとともに、いよいよ自分たちはこの不動丸小学校を旅立っていくのだという気持ちの高まりを実感するに違いありません。毎年3月は、新たな旅立ちをお祝いする気持ちと寂しさが入り混じったなんともいえない時期でもあります。

私がこの不動丸小学校に校長として着任して一年がたとうとしています。多くの児童と話したり、休み時間に体を動かして遊んだりする中で、子どもたちの真の思いにふれることもありました。「本当は修学旅行に行きたかったな」「運動会で騎馬戦をしてみたかった」「プールで泳ぎたかった」「早くマスクを外して過ごしたいな」。これらの子どもたちの気持ちは、まっすぐで正直な思いだと私は感じます。そして、実施させてあげられなかった無念さをいつも感じます。いつまで続くか分からないこのコロナ禍において、小学校がどこまで踏み込んで教育活動を進めていけるか、常に試行錯誤しながらの日々でした。子どもたちにとっては大事な小学校生活のこの時この瞬間を、大人の都合で変更、中止してきたこと、大変申し訳なく思います。この約2年にわたるコロナ禍での取組を私たち学校は今一度ふりかえり、一步前に進んでいくためにさらに努力せねばと強く感じました。

さあ、いよいよ旅立ちのときが近づいてきました。今できる最大限の支援をしながら、今年の6年生を次のステップに旅立たせます。大事な大事な不動丸小学校の6年生に、私は最高の笑顔で卒業証書を手渡そうと思っています。6年生にも自分にも、絶対にがんばろうという気持ちを込めて、最高のフィナーレを迎えたいと思います。